

【一般撮影】

一般撮影とは、X線撮影・レントゲン検査とも呼ばれ、胸部や腹部などの撮影から手や膝 など骨のX線写真まで幅広い撮影をいいます。X線が人体を透過する際に骨や筋肉などの組織によって様々に減弱され、その差が濃淡となって画像に写し出されます。古くから行われている撮影ですが、今でも診断の基本となる大切な検査の一つです。

当院ではデジタル画像装置(主に FPD: Flat Panel Detector/長尺などの撮影 CR : computed radiography)を用いることによって、診断価値の高い画像を低い線量で提供しています。撮影部位は全身が対象となりますので、数多くの撮影法があり、用途により撮影室が分かれています。

撮影室は3部屋ありますが、撮影オーダーにより検査室を使い分けています。また、夜間も1部屋使い救急患者さんの撮影を行っています。



一般撮影装置

一般撮影の注意点

撮影範囲内の湿布やカイロ、ネックレスやアクセサリー、プラスチック、金属などは写真に写り診断の妨げになりますので、外していただきます。また、厚手の衣服やプリントは写ることがありますので検査衣に着替えていただき撮影を行っています。

ご協力をお願いします。